

DEBUT 首長

長野県千曲市長 岡田 昭雄氏

北陸新幹線誘致、投資の目線で 企業誘致トップに民間人据える



おかだ・あきお 1951年長野県千曲市生まれ。70年坂城高校卒業後、更埴市役所（現千曲市役所）に入り、72年長野経済短大夜間部卒業。千曲市役所で議会事務局長、総務部長などを歴任し、2012年4月から参与。前市長の辞職に伴い同11月の市長選で初当選。61歳。

千曲市 長野県北部に位置し、ほぼ中央を千曲川が流れる。2003年、更埴市・戸倉町・上山田町が合併して誕生。人口約6万2000人。

——北陸新幹線駅の誘致を掲げている。

千曲市は首都圏と北陸、中京を結ぶ高速道路のジャンクションがある交通の要衝。さらに新幹線が走っているという全国でも珍しい自治体だ。新幹線駅ができればここを拠点にしてアクセスが飛躍的に向上し、ビジネス、観光とも人の流れが変わる。1997年の長野新幹線開業当時も駅を誘致する活動はあったが、動きが遅く間に合わなかった。

——なぜ今なのか。

駅の設置は市にとって投資だという考えからだ。千曲市の高齢化率は28.6%と高く、社会保障費は今後さらに増える。一方税源の伸びは見込めないなか、何で稼ぐのか。千曲市には豊かな自然に加え森将軍塚古墳、白壁の土蔵が建ち並ぶ旧稻荷山宿の街並みなどが残る。こうした資源を生かすためにも新幹線駅

の設置が望まれる。2年後の金沢延伸には間に合わないが、その次の延伸に合わせ、誘致に力を入れたい。

——病気で辞職した前市長の事実上の後継者。長い行政経験をどう生かすか。

長年行政の内部にいて、良いところも悪いところも見えている。市役所の職員の能力は高いが、外とのネットワークがない。そこで民間の視点を入れて企業誘致を進めるため、4月に新設した企業立地推進室のトップは民間出身者にした。また、アナリストや経営者など10人程度の有識者で作る「まちづくり戦略会議」を発足させ、市政について提案してもらう。

まちづくりを担うのは市役所だけではない。たとえば市の名産のアンズ。農家の高齢化が進むが、1人が耕作を辞めると病気がまん延するなどの問題が起こる。耕作地を非営利組織（NPO）が管理すれば、そうした問題は解決する。専門家の力を借りると同時に、こうした民間の活動を下支えしていきたい。民間の力をどう生かせるかとい

うことも、今後の市町村の勢いを左右するのではないだろうか。

——千曲市の誕生から10年を迎える。

任期中に合併の総仕上げをしなくてはならない。現在、市庁舎は旧市町のものをもそのまま使っているため3カ所に分かれているが、耐震上の課題もある。新年度、建設計画の策定に着手し、期限が5年間延長された合併特例債を使って2018年には新庁舎を建設したい。庁舎の場所が懸案だが、丁寧に説明していくことが必要だ。

また、ハード面だけでなくソフト面も重要だ。吸収合併ではなかったこともあり、旧3市町間ではまだまだ心理面の壁が残っている。市長として各地域になるべく出かけるようにするなど、地道な取り組みをさらに続けていく。全市を挙げたお祭りがあってもいい。千曲市として一体感を持てるよう努力したい。（聞き手は

長野支局 学頭 貴子）